

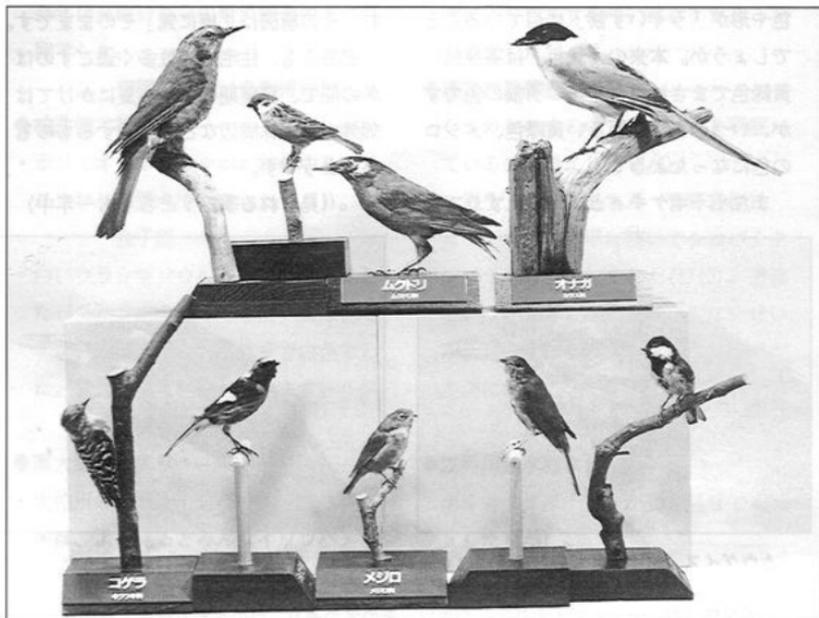
市川自然博物館

6・7月号

(通巻74号)

だより

鳥Ⅱ『庭に来る鳥』 の特集



△今回ご紹介する種類です。スズメを目安に大きさを比べてください。

上段左から：ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、オナガ

下段左から：コゲラ、ジョウビタキ、メジロ、ウグイス、シジュウカラ

鳥Ⅱ『庭に来る鳥』

の特集

庭に来る鳥は、野鳥観察を始めるには絶好の対象です。都市の中での住宅地は、公園と並び緑の多い場所です。むしろ住宅地の方が低木などの茂みが多く、鳥にとっては隠れ場所にも困らない場所かもしれません。訪れる鳥を繰り返し見て、種類を区別してみましょう。

●ウグイス（ヒタキ科） と

メジロ（メジロ科）

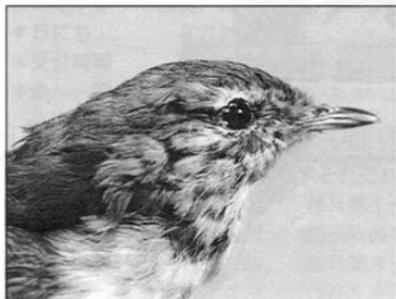
どちらも昔からお馴染みの種類ですが、しばしばメジロのことを、ウグイスだと間違えるようです。

間違えられる第一の理由は、メジロの色や形が「うぐいす餅」に似ていることでしょうか。本来の「鶯色」は茶味強い黄緑色でまさにウグイスの羽根の色ですが、いつのまにか明るい黄緑色、メジロの色になったようです。

またホーホケキョというさえずりで御

存知のウグイスですが、冬の間はチャッチャッと鳴きながら低い藪の中を移動する、あまり目立たない存在です。それに比べ、花の蜜が大好きなメジロは、梅などが咲き出すと真先に庭の目立つ所を訪れ、その構図は「梅に鶯」そのままです。どちらも、住宅地で数多く過ぐすのは冬の間で、繁殖期の春から夏にかけては郊外の雑木林周辺などに移動するものも多いようです。

（見られる季節：どちらも一年中）



△ウグイス（左）…スズメとほぼ同じぐらいの大きさ。目の上にある白い眉のような斑紋（眉斑）が特徴。

メジロ（右）……スズメより少し小さい。その名の通り、目のまわりは白く縁取られている。ほとんど止まることなくせわしく動き回る。

お詫びと訂正

前号4ページ「キジバトとドバト」の写真の説明で左右を誤って記してしまいました。正しくは「キジバト（右）」「ドバト（左）」です。大変申し訳ございませんでした。お詫びして訂正いたします。



●ヒヨドリ (ヒヨドリ科)

昨年某新聞で、「いーよ」と鳴く鳥として話題になりました。鳴き声は他にもビーヨ、キーヨ、ギャッと多様です。虫や種子を食べ、木の実が熟すといち早く大挙して訪れ、にぎやかに捕食してしまいます。庭に来る鳥の中では大きい方なので、餌台を置いているお宅では、小さな鳥を押し退けて餌を独り占めしてしまうため、ちょっと嫌われているようです。(見られる季節：一年中)

△ヒヨドリ

全体の色は灰褐色で、頬は赤茶色。野外では頭の羽根がボサボサしているように見える。

●ムクドリ (ムクドリ科)

ムクドリは、公園の芝生など開けた場所に群れていて、トコトコと地面を歩いているのがよく見られます。

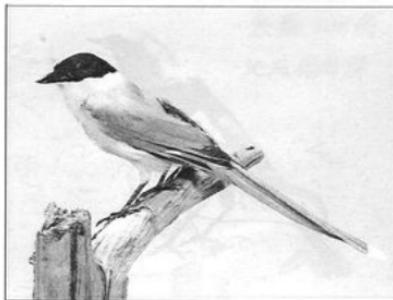
巣は、木や家などにある隙間に、枯れ草などをたくさん運び込んでつくります。締め切ったままの雨戸の戸袋は、巣をつくる恰好の場所のようで、気がつくとも巣が出来上がっていて、しばしば家の人を困らせます。よく似たヒヨドリは、地面にはあまり下りてきません。

(見られる季節：一年中)



△ムクドリ

嘴と足が黄色ことが特徴。大きさはヒヨドリと同じぐらいだが、尾が短い。



△オナガ

身体の高さは、ヒヨドリやムクドリとほぼ同じ。尾の分だけ大きく見える。

●オナガ (カラス科)

ブルーグレーの身体に黒い帽子、長い尾羽と、その上品な姿に反して、鳴き声はゲーゲーとしゃがれています。

繁殖期以外はほとんどが数十羽の群れをつかって行動しています。繁殖期でも、カラスなどの外敵が巣に近づくと、近くの親鳥も一緒になって大騒ぎします。木から木へと飛び移るときは、長い尾がフワリフワリとして、頼り無げな飛び方に見えます。(見られる季節：一年中)

●シジュウカラ (シジュウカラ科)

春にはつがい、夏には子連れで、秋から冬にかけてはメジロやコゲラと混群をつくって、ほぼ一年中庭に来る種類です。ツープーツーピー、ツツビーなどとよく鳴きます。あまり人を恐れないようで、餌台をつくってやるとよく集まってきます。また地面に降りて、落ち葉をガサガサさせながら、植物の種や昆虫などを探して食べています。

(見られる季節：一年中)



△シジュウカラ

黒い頭に白い頬、体色はブルーグレー。胸にネクタイのような黒い線がある。



●コゲラ (キツツキ科)

キツツキというと山の鳥のような印象ですが、最近は住宅地や真間川沿いの桜並木でもよく見られるようになりました。

木の幹に上向きに留まり、時折コツコツと叩き、時には直径数cmのきれいな丸い穴を開けます。細い枝でも器用にくるくる回りながら、餌となる虫を探して移動してゆきます。その動きを見ているだけでも飽きません。(見られる季節：一年中)

△コゲラ

スズメぐらいの大きさで、キツツキの間では一番小さな種類。黒褐色と白のまだら模様。

●ジョウビタキ (ヒタキ科)

秋の渡りの途中のものを見る機会が多い種類で、たいてい1羽で見られます。

庭木の枝や塀の上などの目立つ所で、ヒッヒッとよく通る声で鳴きます。なわばり意識が強く、自分の姿が写るものに、攻撃をすることがあります。時には、停めてある車のミラーの回りを飛び回って攻撃し、気が付くと車体が糞で汚されていることがあります。

(見られる季節：秋から冬)



△ジョウビタキ (写真は雄)

背側に2つの白い斑紋、腹から尾羽の縁がオレンジ色。雌は全体淡い褐色。



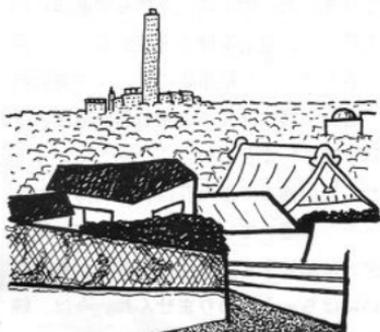
街かど自然探訪

おじゃます!

みやくび
宮久保・崖の上の道からの眺め

フジの花で有名な高円寺の、東側の急な坂上がると、あっというまに台地の上に出ます。市内には、高台からの見晴らしが良い場所は少ないのですが、ここからは中山～八幡の町並みが見渡せます。

左に曲がると、人がすれ違える程度の幅の、木々に囲まれた土の小道です。しばらく行くと、道は崖の真上を通ります。枝の合間や足元からは、住宅の2階の屋根が見下ろせ、台地と低地の差が10数mあるのを実感できます。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



トビハゼ

いわゆるハゼの仲間の魚ですが、陸上生活をするという特異な習性で有明海のムツゴロウと並んで、よく知られています。また市内のトビハゼについては、国内分布の北限に生息していることや、東京湾では貴重になった泥干潟の生態系を代表することからも注目されることが多いようです。

最近、湾奥部で新たな生息地が見つかっています。決して弱い生物ではないのです。泥干潟さえあれば……。

- ・魚類 ハゼ科
- ・地域個体群



近所で見つけた 白いタンポポ

「小2の綾乃がシロバナタンポポを摘んできました。中1の兄を誘って散歩に出た帰りで、場所を聞くと家から少し市役所寄りに行った駐車場です。夕方見に行くと、アスファルトの割れ目から2、3株伸びていましたが、花は閉じていました。娘が摘んできた花は花瓶に挿してキッチンに置いています。律儀に朝に開き夕方に閉じます。部屋の電灯の、光の誘いにはちっとものりませんね。今は、綿毛が少しずつ開いてきました。」

(水垣麻理子さん)



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に
行ったアンケート調査の結果から、むか
しの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答は原文のまま掲載)

- ・市川学園周辺の真間川で水泳をおぼえた(昭和15年) (東菅野)
- ・緑が多く、樹木が繁茂し、道は砂利道で今の様なアスファルト道路は無かった。自宅の横手の道路に沿った川は水がきれいで、飲むことも出来、夏は子供達の泳ぎ場であった。川には「フナ」や、「たにし」や、朝鮮フナと呼んで居た魚を網ですくったり、釣りをした。(妙典)
- ・私の近くは千本松と言われ松の老木が多く植えられてありました。昔農家の人々により作物の防風林として植えたと聞いて居ります。夏の太陽が西に傾く頃になりますと広い水田に餌を求め満腹した白鷺が木の上に羽を休めて居ります。其の数は何千羽でしょう。其の雄大な景観は言葉で表わせない美しさでした。昭和10年頃。(宝)

わたしの
観察
ノート
No. 56

◆大町公園より

- ・フキの花が咲き始めました。ふきのとうが顔を出した時点で囲いをしたので開花まで取られずにすみしました(3/12)。

金子謙一 (自然博物館)

- ・キアゲハが湿地にあるセリに産卵していました(3/19)。

清野元之 (自然博物館)

- ・アズマヒキガエルの産卵が始まりました(3/23)。例年、産卵は雨の後ですが今年の日曜日からの晴天続きの末の産卵でした。

宮橋美弥子 (自然博物館)

◆柏井緑木林より

- ・ホソミオツネトンボが林の中をワリワリと飛んでいました(3/21)。

金子謙一

- ・白いウラシマソウの花が咲いていました(4/17)。白といっても薄い黄緑色ですが、苞から出た付属体まで白色でした。普通は濃紫色をしています。

宮橋美弥子

◆南大野付近より

- ・大柏川の水面上を素早く行き交うツバメは、よく見るとみんなイワツバメでした(4/17)。

金子謙一

◆坂川旧河口より

- ・河川敷の湿地にカササゲが花を咲かせていました(3/30)。カヤツリグサの間は、これからいろいろ咲きだします。

小川 晃 (自然博物館)

- ・河川敷のアシ原にオオジュリン1羽、カワセミが低く飛び、キジのさえずりを久し振りにききました(4/7)。

◆里見公園より

- ・里見公園との境界付近、総寧寺境内の道に下りてエサをついばむアトリ1羽を見ました(3/24)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・シラカシの木の中でフクロウ2羽眠っているのを見ました(3/4)。

以上 根本貴久さん (菅野在住)

- ・カントウタンポポに続いてシロバナタンポポも咲きだしました(4/13)。遺跡という性格上土地の改変が少ないせい、林内ではいわゆる日本タンポポが主流になっています。

宮橋美弥子

◆江戸川放水路より

- ・早くもメダイチドリが姿を見せてくれました(4/3)。

金子謙一

◎3月は、一雨ごとに暖かくなりましたが、4月中旬には10℃以下の日もありました。



行 事 案 内



自然観察会 **申込が必要です**

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容により対象が異なります。

テーマ	対象	日時	場所	受付開始
夏の昆虫	親子	7月15日(日)午前	長田谷津	6月23日～
水の中の生き物	親子	8月12日(日)午前	長田谷津	7月21日～

ホタルを学ぼう **申込が必要です**

自然観察園に生息するヘイケボタルを、観賞するだけでなく生態や生息する環境などについても詳しく学習します。室内講義の後、野外で観察します。

- *日時 7月27日(金)、28日(土)、29日(日) 各日とも内容は同じです。午後6時～8時
- *場所 自然博物館、自然観察園
- *定員 各日先着20名 希望日を明記してお申し込みください。
- *受付開始 7月7日(土)

ホタルの見られる期間は、自然観察園を夜間も開放していますので、自由にホタルをご覧になれます。

詳しくは市川市動植物園まで。☎047-338-1960

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名（「ホタルを学ぼう」は参加希望日）を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

名前を調べる会 **申込は必要ありません、直接会場へ**

あなたが作った植物、昆虫などの標本に、専門の先生が名前をつけます。

- *日にち 8月26日(日)
- *受付時間 午前10時～11時30分、午後1時～3時30分
- *会場 市民会館（葛飾八幡宮参道脇）

散策会（長田谷津）（柏井雑木林） **申し込みは必要ありません。**

ゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

- 長田谷津
 - ・日時 毎月第1土曜日（8月は除く） 午後1時30分～3時
 - ・集合場所 動植物園券売所前
- 柏井雑木林
 - ・日時 毎月第3土曜日 午後1時30分～3時
 - ・集合場所 市民キャンプ場 管理事務所前

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせを。

野草名札付けのお手伝いを

していただきませんか。

- ・日時 毎月第1土曜日（8月は除く）
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入口

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください。

市川市川自然博物館だより
第13巻 第2号（通巻第74号）

発行日/平成13年6月1日

編集・発行/市川市川自然博物館

〒272-0801 千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

[http://www.city.ichikawa.](http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/)

[chiba.jp/nature/](http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/)